

平成25年第6回教育委員会定例会  
(6月25日開会)

台東区教育委員会

日 時 平成26年6月25日（火）午後2時05分

場 所 教育委員会室

出席委員

委 員 長	末 廣 照 純
委員長職務代理者	樋 口 清 秀
委 員	前 田 烈
委 員	高 森 大 乗
教 育 長	和 田 人 志

説明のために出席した事務局職員

事 務 局 次 長	須 賀 裕
生涯学習推進担当部長	神 部 忠 夫
庶 務 課 長	嶋 田 邦 彦
学 務 課 長	田 中 充
児 童 保 育 課 長	柴 崎 次 郎
指 導 課 長	藤 森 克 彦
教育改革担当課長 （兼 教育支援館長）	針 谷 玲 子
生 涯 学 習 課 長	飯 塚 さ ち 子
青少年・スポーツ課長	小 澤 隆
中央図書館長	川 島 俊 二
事 務 局 副 参 事	柿 沼 浩 一

日 程

日程第1 教育長報告

1 協議事項

(1) 庶務課

ア 浅草納税貯蓄組合連合会及び上野納税貯蓄組合連合会が実施する事業に対する共催について

イ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013東京上野実行委員会が実施する事業に対する後援について

(2) 学務課

ウ 平成25年度台東区立中学校選択制度における入学可能者数の選定について

エ 退任学校医に対する感謝状の贈呈について

(3) 教育改革担当

オ 公益財団法人東京都歴史文化財団東京文化会館が実施する事業に対する後援について

(4) 生涯学習課

カ 台東区立小学校PTA連合会が実施する事業に対する共催について

キ 台東区立中学校PTA連合会が実施する事業に対する共催について

(5) 青少年・スポーツ課

ク 桜橋・わんぱくトライアスロン実行委員会が実施する事業に対する共催について

2 報告事項

(1) 庶務課

ア 平成25年第2回区議会定例会一般質問について

イ 区民文教委員会における報告事項について

ウ 後援名義の使用について

(2) 指導課

エ 平成25年度台東区総合学力調査結果(速報値)について

オ 中1対象「社会・理科確認テスト」結果について

(3) 生涯学習課

カ 今戸住宅及び合築区有施設の耐震診断結果について

3 7月の行事予定について

4 その他

午後2時05分 開会

末廣委員長 ただいまから、平成25年第6回台東区教育委員会定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、高森委員にお願いいたします。

それでは会議に入ります。

この際、あらかじめ会議時間の延長をいたしておきます。

それでは、ここで傍聴についてお諮りいたします。

本日の教育委員会に提出される傍聴願については、これより許可いたしたいと思っております。

これにご異議ございませんか。

(異議なし)

末廣委員長 ご異議ございませんので、傍聴については許可いたします。

事務局 本日、傍聴希望はございません。

日程第1 教育長報告

1 協議事項

(1) 庶務課 アイ

末廣委員長 それでは、日程第1、教育長報告に移ります。

まず、協議事項を議題といたします。

事務局各課ごとに説明をお願いします。

初めに、庶務課のア及びイについて、庶務課長、説明をお願いします。

庶務課長 それではまず、アの浅草納税貯蓄組合連合会及び上野納税貯蓄組合連合会が実施する事業に対する共催についてご説明いたします。資料1をご覧ください。

今年度も上野・浅草の納税貯蓄組合から中学生の税についての作文を募集し、審査、表彰する事業を行いたいということで共催の依頼がございました。

資料の裏面の6、事業内容をご覧ください。

課題は、今回も「税について」。題材は自由で、次数は1,200字以内、9月4日に締切り、その後審査を行いまして、来年の1月15日に表彰式を行う予定です。項番9にあります、平成18年度から教育委員会では共催をしており、台東区も後援をしている事業です。

昨年度の応募状況ですが、3枚目の最後の資料をご覧ください。

区立、都立、私立の計9校で、生徒数が2,953人、応募数が2,724人、応募率は92.4%でございました。東京都管内や全国平均の数字と比較しましても、台東区は非常に高い応募状況でございます。なお、裏面は昨年表彰の状況でございます。

簡単でございますが、アの説明は以上でございます。よろしくお願いをいたします。

続きまして、イのリレー・フォー・ライフ・ジャパン2013東京上野実行委員会が実施する事業に対する後援について、ご説明をいたします。資料2をご覧ください。

3枚目に事業の概要がございますのでご覧ください。

事業名は、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013 東京上野」。開催場所は、上野恩賜公園の噴水広場周辺でございます。

がん患者支援プログラム「リレー・フォー・ライフ（RFL）」（＝命のリレー）というのですが、このイベントは、がん患者、家族、支援者が地域社会とともにがんと戦うための絆を育むということで、24時間リレーをしながら、その周りで演奏などのさまざまなパフォーマンスで応援をします。また、各ブースを設けて子どもから大人まで、がんについて学べる啓発サポートキャンペーンでございます。アメリカのがん協会が始まり、全米に広がったチャリティーイベントで、世界20カ国で行われているということです。日本では、2006年から各地で実施をされております。昨年、東京23区では、東京芝公園が会場になっておりました。がん患者支援のための募金、寄附金を集め、イベントの開催経費を除いた分を、日本対がん協会を通じて、電話相談や新薬研究等に役立てているということです。

開催日時は、2013年9月14日～15日、参加者は、3,000人程度を予想しているということです。

運営主体は、公益財団法人日本対がん協会。東京都が共催をしております。後援につきましては、依頼中のところもありますが、厚生労働省、台東区、都・区の医師会、教育委員会、その他それぞれの団体などをお願いをしているということです。

イの説明は以上です。よろしく願いいたします。

末廣委員長 ただいまの説明につきまして、まずは協議事項の庶務課のAについて、何かご質問ございますか。

前田委員 共催とは、その団体と教育委員会が同じような権限や責任を持ってやる事業ということですか。

庶務課長 そうです。

前田委員 参加率を見ると、圧倒的に台東区はいいですね。これはとてもいい事業だと思っておりますが、今、教育委員会では、子どもたちのためにも、学校の先生方の仕事を少なくしていこうとしている。この資料の東京都管内、全国平均の応募率はなぜこんなに低いのか。台東区は現場の先生方が相当無理をしているのではないかと感じてしまいましたが、どのような状況でしょうか。

指導課長 前田委員のご指摘の、現場の教員の認識については、毎年ある事業ですが、取組の教育的効果や中身は大事なことで、内容も含めて指導は当然していかなければいけません。そういう点で時間はとられるだろうと思っております。

ただし、意義や教育効果と時間、そのバランスは一つの課題で、現場の声は積極的に聞いていかなければいけないと思っております。

また、作文だけではなく、税の教室や標語など、さまざまな税に関する教育がございますので、カリキュラム上どういう位置付けをしていくのかは、大きな課題として今後も見ていく必要があると思っております。

前田委員 学校がどういう状況かは、ぜひ把握していただきたいと思います。

私が教員をしていた頃に比べて、学校が対応しなくてはならないことは増えました。学校も難なくやれて、それでいいですよということであれば、私はあえて言いません。都や全国平均の応募率が低いのは、やはり学校の思いがあるのだと思いますが、一方で、公民の授業の時にやるなど、いろいろな方法もあると思います。

貯蓄組合はすごく熱心に活動されていて、学校とは今後もいい関係であってほしいし、教育委員会が共催であるならば、その辺りもきちんと見ながら努力もすることが必要ではないかと思います。

もう一点、教育課程は校長が責任を持って組むわけですね。教育委員会が、これは絶対やりなさいというときは、きちんと客観的な根拠がないといけない。

樋口委員 生徒の作文が納税組合に届く過程で、税務課が関係していますよね。これは、区が介在していることが明白になっています。教育委員会からは、中学校にどのようにインフォメーションするのかを教えていただきたい。

指導課長 このお話はいつも早い段階でお話をいただいており、その都度、中学校の校長会には、担当の指導主事をはじめ事務局のからも、事業の実施について情報提供させていただいております。

また、先ほど前田委員からご指摘のありました、事業実施にあたって、学校からの要望や、あるいは教育効果等について校長からご意見をいただくような働きかけも、私どもからさせていただいているところでございます。

高森委員 締め切りの時期を見ると9月4日ですので、夏休みの宿題のような形をとるのかと思います。ということは、授業の一環としてこれが組み込まれているのか、あるいは宿題として、課題として出されているのか、その辺りも調べていただきたいと思います。

末廣委員長 税金に関して教える機会はよくあるのですか。

指導課長 税についての学習は小学校の段階からございまして、小学校でも税の教室を開いております。各種団体からのリーフレットや学習用の資料も小学校の段階から配布されていますので、その都度、指導をしている状況にあります。

末廣委員長 ほかにございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、協議事項、庶務課のイについて、何かご質問ございますか。

樋口委員 申請用紙の裏面の、共催又は後援名義使用による効果に、広く広報活動を行うにあたり信頼性の向上とあります。そしてその上の欄には、募金、寄附金を集める記載がある。ここに公益性があると言い切れるでしょうか。20%は事業費で80%は寄附しますというのは公益性ということでもわかりますけれども。がんの撲滅に関しては、我々みんなが協力して当たるということに関しては異論はないですが、お金を集めるということにおいて、教育委員会の名前を使うことに対しては、我々はどう対応をすべきか、ちょっと考えるべきだと思います。

この組織がどういう組織で、今までも事業をやってきたというのはわかりませんが、参加者3,000人という数字は、相当な金額が集まると思いますので。

庶務課長 実行委員会の母体は、日本対がん協会という公益財団法人でございまして、がんの撲滅や、がんに対する啓発などの活動をしている団体でございます。

寄附金等につきましても、日本対がん協会を通じて、がんで悩む方の電話相談や新薬の研究などに使われ、病院や研究機関とも、この協会はつながっておりまして、そちらのほうに、開催経費以外のものは確実に送られていて、2006年から日本全国で実施しており、実績は信用ができる内容になっていると考えております。

樋口委員 日本対がん協会が実施するなら異論はないですが、民間会社が実施しますよね。本部は民間会社ですよ。

庶務課長 団体名がリレー・フォー・ライフジャパン2013東京上野実行委員会という団体、これは、事務局の場所が民間会社内ということで、この会社が直接関わっているわけではなく、日本対がん協会が主体です。

樋口委員 日本対がん協会の中に事務局があったほうがすっきりしますね。ここは民間会社であって、実行委員長がいて、その下に事務局長がいる。東京都も共催ですか。

庶務課長 東京都共催です。

樋口委員 東京都には確認をとられていますか。

庶務課長 はい。台東区も後援すると確認をとっております。

樋口委員 そういう各団体がOKならよしいんですが、募金については、東北復興の募金も、集めたお金が実際に行っていないというのが話題でもありましたので。

庶務課長 私どもも、こういった募金や寄附金を集めるということで、団体のこれまでの実績等について、事前に確認をしております。

2006年から全国を回っていて、現地の自治体や教育委員会の共催等を取りながら事業を実施しており、こうした募金が日本対がん協会を通じて、がんの撲滅のために使われているということも確認をしておりました。

末廣委員長 事業が終わった後、会計報告はありますか。

庶務課長 過去の活動報告書も非常にしっかりしており、そういったことも確認をしております。

和田教育長 樋口委員がご指摘になった部分で、信頼性を高めるために後援をしてほしいというようなことだと、まさに募金集めのクレジットを下さいというような印象を受けます。本来的に、教育委員会の後援名義使用になじむのかどうなのか。今の説明で私はよくわかりましたが、これまでもそういう例があったと考えていいですね。

庶務課長 こうした事業に対して後援をしている例はございます。

末廣委員長 ほかにございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、庶務課のア及びイについては、協議どおり決定いたしたいと思

います。これにご異議ございませんか。

(異議なし)

末廣委員長 ご異議ございませんので、協議どおり決定いたしました。

## (2) 学務課 ウエ

末廣委員長 次に、学務課のウ及びエについて、学務課長、説明をお願いします。

学務課長 まず初めに、ウの平成25年度台東区立中学校選択制度における入学可能者数の設定について、ご説明を申し上げます。資料3をご覧ください。

入学可能者数の設定につきましては、小学校6年の子どもたちや保護者が選択に当たり、抽選になる可能性や繰上げの状況等々、状況がわかりやすいように各校ごとに設定し、公表するということで、昨年から実施しております。

平成26年度の新入学者においては、教室の空き状況や今後の学年進行等々、学校運営の観点から学校長と5月上旬より協議を行い、資料の表のとおり取りまとめたところでございます。

入学可能者数につきましては、1学級の上限である40人から、年度末の自然増減の可能性の3人を差引いた「37人×学級数」で設定しております。この可能者数をあらかじめ設定することで、抽選時の当選枠や補欠の繰上げ人数など、保護者向けの目安となります。この表の中身は、昨年と結果的に同じ数字になってございます。

抽選については、入学可能者数を選択者数が超えた場合に、参考1に記載のとおり、選択者数が上回り、かつ私立中学校への入学者や、転出等による減を見込んでなお、入学可能者数を上回るという予測が立つ場合に抽選といたします。

ただし、通学区域内からの選択者のみでこのように上回った場合には、抽選を実施せず、通学区域内の選択者の全員を入学予定者として、通学区域外からの選択者は、お住まいの通学区域の学校を入学校とするというもので、昨年の柏葉中学校は、このただし書が適用されました。

裏面をご覧ください。

先ほど、入学可能者数の設定に当たっては、教室の数等々を参考にということですが、こちらの参考2の表が、各学校の改修を伴わずに使える空き教室数、また、現在、各学年で使っている教室数でございまして、ポイントはやはり柏葉中学校で、改修を伴わずに確保できているのは3教室ですので、また集中して前回と同様になりますと、改修等々が必要になることが想定されます。

参考3は、今年度の入学者の状況で、選択者は合計で1,074人。最終的な入学者は773人で、選択者の中では72%、逆にいいますと、28%が私学等に進学されたという状況でございました。こちらの入学可能者数につきましては、今後7月の終業式に中学校案内に掲載し、配布したいと考えております。協議をお願いいたします。

続きまして、エの退任学校医に対する感謝状の贈呈についてご説明いたします。資料4



をご覧ください。

平成小学校の耳鼻科校医をお願いしておりました石川先生におかれましては、一身上の都合によりまして、5月31日をもって退任されました。つきましては、これまでのご功績をたたえ、感謝状をお送りしたいと思っております。ご協議をお願いいたします。

ご説明は以上でございます。

末廣委員長 ただいまの説明につきまして、まず協議事項の学務課のウについて、何かご質問ございますか。

樋口委員 柏葉中学校については、他の学校と違って教科型教室なので、教室を増やすのは非常に大変なことだと思います。応募者多いからといって、安易に教室を増やすというのはいかなものかと思いますが。

学務課長 全くご指摘のとおりでして、今年度もおそらく4クラスになるということで、その教室の確保については、校長とも十分協議し、教科型教室指導に影響が出ない範囲での改修となっています。来年度についても、庶務課も含め、学校とも十分に協議をして、影響が出ないような形で改修したいと思っています。

前田委員 ある区では、校長が変わった途端に、教科型教室はやらないと言って騒動になり、教育委員会事務局が苦労したという話を聞きました。教科型教室というのは、そう簡単に潰すべきではないと思うし、期待も大きいと思います。

柏葉中学校は統合したから、学区域が広いですよ。通学区域内の全員が来たら、3教室でおさめますか。

学務課長 例年の4月入学の傾向を差し引いたとして、全員手が上がった場合には3教室にはおさまらないと思います。

前田委員 それでも、全員入れるんですよ。

学務課長 もし全員がということでしたら、そういうことになります。

高森委員 裏面の参考3の平成25年度新入学者の状況について、通学区域の登録者数は平成24年度10月1日となっていますが、この時期にならないと通学区域の登録者数はわからないのでしょうか。現段階でも、ある程度は把握されていますでしょうか。

学務課長 平成25年の4月1日現在ですと、柏葉中学校につきましては261名でございます。昨年度は324名でございます。

前田委員 今は教科型教室であることや、施設整備をしたからことも関係あると思いますが、非常に人気が高いですね。教科型教室に期待することとして、進学はともかく、他校に比べて学力が上がってくるということも期待されていると思います。教科型教室になって、学力が上がってきたなど、顕著な特徴は何か出てきていますか。

指導課長 学力が上がるには、いろいろな要因があると思いますが、校長の話や指導課訪問の際の学校の様子などを見ておきますと、一番変わってきたのは、各教員が個別指導をして、できない子どもにも徹底して教えていこうという意識が各教室で高まっているという状況はあるかと思っております。

システムの問題か、教員の意識が変わったのか、複合的なものもあるかと思いますが、総合的には教員の意識が変わった結果、確かに学力調査の結果も上がってきている、あるいは学力の二極化が改善されつつあるという状況は見られるところでございます。

前田委員 柏葉中学校には以前、女性の数学の先生がいました。もう定年を迎えましたけれども。その方が徹底して教えた結果、学力が上がりました。教師の力というのはやはりすごいなと思います。教科型教室での教育を先生たちにしっかりやっていただいて、教育委員会としても応援すべきことは応援するというようにしないといけないと思います。

樋口委員 柏葉中学校もそうですが、就学援助の認定世帯が、パーセンテージにしても高い。生徒の自宅で英語辞典や国語辞典を購入することは無理だと言われる。家庭で自学習をすることが、環境として整備されていない場合が多いと感じます。

それに向けてどう教育するか、教員にも徹底しないとならない。そうすると、なるべく家庭でできない分を学校がどうしてあげるか。ある私学は自習室を夜7時まで解放しているようですが、そういう学校での教育プラス自学習をする環境を学校でつくってあげないといけないかと。一般の教科教育パターンとは違う環境をもう少し考えてあげないといけないと思います。その辺りも学校と連携して、環境を少し見てあげて、その環境を補助する形で、こちらが整備してあげないといけないという感じがします。進学についても、なかなか高校進学も難しいところでもあるようですので、全体的に見ていかないといけない状況です。

末廣委員長 ほかにございますか。

(なし)

末廣委員長 次に、協議事項、学務課の工について、何かご質問ございませんか。

高森委員 感謝状の日付は5月31日で、石川先生がご退任された日になっていますが、贈呈されるのはいつでしょうか。

学務課長 本日以後お届けすることとなります。

末廣委員長 ほかにございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、学務課のウ及びエについては、協議どおり決定いたしたいと思えます。

これにご異議ございませんか。

(異議なし)

末廣委員長 ご異議ございませんので、協議どおり決定いたしました。

### (3) 教育改革担当 才

末廣委員長 次に、教育改革担当の才について、教育改革担当課長、説明をお願いします。

教育改革担当課長 それでは、公益財団法人東京都歴史文化財団東京文化会館が実施す

る事業に対する後援について、ご説明させていただきます。資料5をご覧ください。

公益財団法人東京都歴史文化財団東京文化会館から、「ミュージック・エデュケーション・プログラム 国際連携企画 カーザ・ダ・ムジカ ~Casa da Musica~」という、今年度初めて実施される事業について、後援名義使用の申請があったものでございます。

本事業の目的は、項番5に書かれておりますが、海外で最先端の教育普及活動を行っている劇場と連携して行うものです。カーザ・ダ・ムジカというのが、その劇場になります。ワークショップを通して音楽や芸術に対する関心を高めながら、自己表現能力やコミュニケーション能力を養うことにより、都民の豊かな心を育てることを目的としてございます。

今年度はポルトガルのカーザ・ダ・ムジカ劇場と連携して、同劇場で実施される子どもやファミリー向けのワークショップの開催。また子ども向けのワークショップを創作するワークショップリーダー育成プログラムを実施することを目的としてございます。

裏面の項番6、事業内容をご覧ください。

ワークショップリーダー育成プログラムについては台東区立大正幼稚園において、音楽のワークショップが開催されることになってございます。

入場料等の徴収については、ワークショップリーダー育成プログラムを受講する方からの入場料の徴収となっております。

承認期間は2月6日まで。今回初めての開催ですので、過去に後援名義の使用はございません。

項番10、共催又は後援名義使用による効果でございますが、本事業はチラシ掲載によるPR効果と、私どもが実施しております「学びのキャンパスプランニング」の一環として、大正幼稚園でデモンストレーションを実施予定でございます。

本後援につきましては、よろしくご協議の上、許可いただきますようお願い申し上げます。説明は以上です。

末廣委員長 ただいまの説明につきまして、何かご質問はございませんか。

(なし)

末廣委員長 それでは、教育改革担当のオについては、協議どおり決定いたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

(異議なし)

末廣委員長 ご異議ございませんので、協議どおり決定いたしました。

#### (4) 生涯学習課 カキ

末廣委員長 次に、生涯学習課のカ及びキについて、生涯学習課長、説明をお願いします。

生涯学習課長 それでは、初めに、カの台東区立小学校PTA連合会が実施いたします、親子キャンプ及びビーチボール大会の共催につきまして、ご説明いたします。資料6をご覧ください。

本事業は、平成11年から毎年、教育委員会が共催している事業でございます。親子キャンプは、区立あわ野山荘を利用し、親子の自然体験活動を行うものです。またビーチボール大会は、リバーサイドスポーツセンターを会場に、全校PTAが一堂に会して実施するものです。子どもの体験学習に寄与し、PTA活動の活性化、生涯学習の振興の観点から、本件共催につきまして、よろしくご協議の上、ご許可いただきますようお願い申し上げます。

続きまして、キの台東区立中学校PTA連合会が実施いたします宿泊研修会の共催につきまして、ご説明いたします。資料7をご覧ください。

本事業は、平成18年から毎年、教育委員会が共催している事業でございます。この宿泊研修会は、中学生が移動教室や林間学校を通じて利用する、少年自然の家霧ヶ峰学園を使用し、教育施設の視察とPTAの抱える諸問題についての研修を行うものでございます。PTA活動の活性化と生涯学習の振興の観点から、本件共催につきまして、よろしくご協議の上、ご許可いただきますようお願いいたします。

ご説明は以上です。

末廣委員長 ただいまの説明につきまして、まず、協議事項、生涯学習課の力について、何かご質問ございませんか。

(なし)

末廣委員長 それでは、次に協議事項、生涯学習課のキについて、何かご質問はございませんか。

高森委員 カとキの両方について、こういったPTA主催の事業には、当然子どもも参加すると思いますが、何か事件があったときの体制については、教育委員会として把握をしていますか。連絡網などは構築されているのでしょうか。

生涯学習課長 PTAには事務局があり、かなり密接にいろいろなことができます。また、事故等につきましては、PTAの児童保険等もありますので、そういったものを活用してございます。

末廣委員長 ほかにございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、生涯学習課の力及びキについて、協議どおり決定いたしたいと思えます。これにご異議ございませんか。

(異議なし)

末廣委員長 ご異議ございませんので、協議どおり決定いたしました。

#### (5) 青少年・スポーツ課 ク

末廣委員長 次に、青少年・スポーツ課のクについて、青少年・スポーツ課長、説明をお願いします。

青少年・スポーツ課長 それでは、桜橋・わんぱくトライアスロン実行委員会が実施いたします桜橋・わんぱくトライアスロン2013への共催について、ご説明いたします。資料

8をご覧ください。

この事業は、台東区と墨田区の在住・在学の小学4年生から6年生までの児童を対象に、スイム100メートル、バイク5キロメートル、ラン2キロメートルのミニトライアスロンを通じて、心身の鍛錬と健康の増進を図るとともに、達成感や緊張感、自然とトライアスロンを実感してもらうことで、子どもたちの成長に資することを目的として開催されているもので、今回が26回目の開催でございます。

本年度は8月25日（日）に、台東リバーサイドスポーツセンターで開催が予定されております。なお、本事業は、昨年度も教育委員会において共催しているところでございます。つきましては、子どもたちの健全育成に寄与するものであることから、台東区教育委員会の共催の許可について、ご審議をよろしくお願いいたします。

説明は以上です。

末廣委員長 ただいまの説明につきまして何かご質問ございませんか。

前田委員 わんぱくトライアスロンは、どこが主体となって動いているのか、去年までは分かりませんでした。青年会議所ですね。

青少年・スポーツ課長 前田委員ご指摘のとおり、公益財団法人東京青年会議所台東支部でございます。

前田委員 青年会議所は、この事業について一生懸命ですね。我々も応援したいです。

末廣委員長 ほかにございますか。

（なし）

末廣委員長 それでは、青少年・スポーツ課のクについては、協議どおり決定いたしましたと思います。これにご異議ございませんか。

（異議なし）

末廣委員長 ご異議ございませんので、協議どおり決定いたしました。

## 2 報告事項

### （1）庶務課 アイウ

末廣委員長 次に、報告事項を議題といたします。

事務局、各課ごとに報告をお願いします。

初めに、庶務課のアからウについて、庶務課長、報告をお願いします。

庶務課長 それではまず、アの平成25年第2回区議会定例会一般質問事項について、ご説明いたします。資料9をご覧ください。

高森議員以下7人の議員から質問がありまして、教育委員会にはその全員から質問がございました。3ページをご覧ください。

高森議員からは、女性の就労を支援する観点からの保育所の充実についての質問、ICT教育についての効果、今後の計画についての質問がございました。

4ページをご覧ください。青柳議員からは、教育委員会の改革についてという質問があ

り、こちらは、議会内で「たいとうフロンティア」という新会派が結成され、開かれた議会や、政策重視の議会を目指すということで、今回、区長部局と教育委員会に、それぞれ開かれた行政運営についての質問がありました。

教育長答弁にもありますように、これまでも教育情報誌「大輪」による情報発信、「出前教育委員会」の開催、さまざまな団体との懇談会などを通じて、地域住民、保護者、学校とともに教育行政を推進してまいりました。その他、台東区教育ビジョンの策定に当たり、幅広い層の区民の参加をいただいたことのほか、この定例会の会議録も公開を始めると、今後も一層開かれた教育行政の運営に努めていくという答弁をしております。

公明党の小坂議員からは、非構造部材の耐震化の質問、公立学校・園の施設の老朽化の現状と対策について質問がございました。

みんなの党・無所属クラブの鈴木一郎議員からは、国際理解重点教育についての質問がありました。小学生にも海外派遣を拡大してはどうかという質問でございます。答弁としては、小さいうちから海外に慣れ親しむという効果はある反面、安全面や健康面で管理など考慮が必要だということで、今後は派遣生徒による報告会に小学生の参加を促して、海外体験の興味関心を喚起したいと答弁をしております。

同じく鈴木一郎議員から、表現力を高める教育について質問がございました。内容はイギリスで演劇を教育に取り入れて、表現力を高める効果を上げている例を出し、このような取組をすべきだという質問がございました。

共産党の小高議員からは、図書館に関して、運営方法を含めて5点ほど質問がなされております。

たいとうフロンティアの本目議員からは、人口構成と教育環境についてということで、地域によってマンション建設等で就学前児童の人口が増えていることに対し、小学校の教室の整備や、こどもクラブの待機児童防止策について検討すべきだという質問がございました。教室整備につきましては、検討会を設置して抜本的な対策を検討しており。また、こどもクラブにつきましても、平成27年度からの新制度の準備を進める中で検討し、適切に対応すると答弁をしております。

みんなの党・無所属クラブの阿部議員からは、待機児童についてご質問がございました。国の「待機児童解消加速化プラン」についてどう考えるかという質問があり、教育長からは、5月に発表されたこのプランには、小規模保育施設や事業所内保育施設の支援など、多くの有効な施策が示されておりますが、現時点では国や都の財政支援委内容が定まっておらず、活用の可能性についてよく見極めながら検討していきたいという答弁をしております。

一般質問の説明は以上でございます。なお内容の詳細は、資料をご覧くださいと思います。

続きまして、イの区民文教委員会における報告事項について、ご説明いたします。資料10をご覧ください。

教育委員会の報告事項として、平成25年度国際理解重点教育中学生海外短期留学派遣制度選考結果等について、指導課長から報告がありました。

委員からの質問・要望ですが、河野委員から、デンマークのグラズサクセ市が続いているということで、一方の姉妹都市であるオーストラリアのマンリー市にできないか。子どもたちを主体にした実施方法を検討してほしいというような要望がございました。

また、望月副委員長からは、公立の学校で海外派遣をしていることについて、大変よいことだという評価をいただいておりますが、小学生への周知、特に児童や保護者に向けて、積極的にお願いしたいという要望がございました。

その他で指導課長から、都の教育委員会から公表がありました体罰調査について報告がありました。この件は区民文教委員会の前日に、都が公表したため、その他で報告をしたものでございます。ご案内のとおり台東区は2件ございまして、内容は、5月の教育委員会で報告をしたものでございますが、河野委員からは今後の対応策として、台東区教育職員行動指針について、具体的な内容となるように見直すべきとの意見が寄せられました。

小菅委員からは、子どもと先生との信頼関係が大事なので、こうした信頼関係を築いて、安全・安心な関係をつくってくることが、教育委員会の仕事であることご指摘をいただいております。

区民文教委員会の報告につきましては、以上です。

続きまして、ウの後援名義の使用につきまして、ご説明いたします。資料11をご覧ください。

継続的な後援の使用については、庶務課取扱分8件、生涯学習課取扱分2件、青少年・スポーツ課取扱分2件、計10件の後援名義の使用申請がございました。よろしく願いいたします。

青少年・スポーツ課長 ただいまの庶務課長から説明のございました後援名義使用申請について、青少年・スポーツ課取扱分についてご説明させていただきます。

春季柔道大会についての申請でございますが、本事業は、参加者の調整が時間がかかり、後援名義申請が5月27日でした。本件につきましては、台東区教育委員会共催及び後援名義等の使用承認事務取扱要綱の第3条に基づきまして、教育長による専決で決定をさせていただいております。台東区柔道会には、今後このようなことがないように申し入れを行うとともに、青少年・スポーツ課といたしましても、今後このようなことがないように十分注意たいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

末廣委員長 それでは、ただいまの報告につきまして、まずは報告事項、庶務課のAについて、何かご質問ございませんか。

(なし)

末廣委員長 次に、報告事項、庶務課のイについて、何かご質問ございますか。

(なし)

末廣委員長 次に、報告事項、庶務課のウについて、ご質問ございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、庶務課のアからウについては、報告どおり了承願います。

(2) 指導課 エオ

末廣委員長 次に、指導課の工及びオについて、指導課長、報告をお願いします。

指導課長 それではまず、工の平成25年度台東区総合学力調査結果(速報値)につきましてご説明いたします。資料12をご覧ください。

まず、学力調査を実施した学年と教科でございますが、小学校4年生は国語、算数の2教科、小学校5年生・6年生は、さらに社会科と理科を加えて4教科、そして中学校2年生、3年生は英語も加えて5教科を調査いたしました。

表の のところについては、文部科学省の全国学力・学習状況調査として実施しており、そのデータがまだ国から来ておらず、8月の下旬に来る予定でございますので、まずは区の部分だけご報告をさせていただきます。国の結果がまとまり次第、教育委員会の定例会において、改めてご報告をいたします。

結果でございますけれども、この数値は、正答率をパーセント表示してございます。一番左の列が全国平均です。今回、調査を依頼した委託業者が、全国の自治体等で調査したデータをもとに、全国平均を出しております。

次の列は、本区の正答率で、その右側の列は本区と全国平均との正答率の差を表示してございます。マイナスの表示になっているところは、本区のほうが全国の平均より下回っていることを示しております。

また、一番右の列の変容という欄でございますが、こちらは全国平均との差、絶対値を昨年度と比較したものでございます。見ていただきますと、小学校5年生が全教科において、全国平均は上回っているものの、昨年度よりも低くなってしまったという状況が見られます。逆に、中学校1年生は、今まで課題となっておりました社会科と理科が、昨年度に比べて上がってきています。また、中学校1年生の社会科につきましては、全国平均との差がマイナスですけれども、理科につきましては、プラスに転じたという状況もございます。また中学校2年生の社会科におきましても、高い伸びが見られます。

今まで課題であった中学校段階での社会科と理科の状況が、少しずつ改善に向かってきたという兆候が見られたと考えてございます。

資料にはお示ししておりませんが、こういったデータに基づき、指導課において、それぞれの学校の学年の状況まで細かく分析をいたしました。ある学校のある学年で、昨年度との比較で顕著に伸びているところを全て出してみました。伸びている学校、学年の、なぜ伸びたのかという要因についても調べるため、当該学校に指導主事が直接ヒアリングをいたしまして、高くなった要因を調べました結果、次の4点のことがわかりました。

まず1点目が、徹底して指導しているということです。一通り指導が終わった後に、知識・理解の習得状況を確認するミニテストなどを通して、身に着いていない児童・生徒を



把握するとともに、できるまでやらせる、終わるまでやらせるというようなことをきちんとやってきたということでした。

2点目は、指導の中で、教員が何ができたらし、何をさせたらよしとするということ、教員自身が明確に持って指導していたということです。教員自身がハードルを明確に妥協せずに繰り返し指導してきたということです。また、自分のクラスだけでなく、他のクラスや学年全体で取り組んでいこうというように、学年体制でやってきたという状況が見られました。ある学校では、文章力をつけるために、文章を書く機会をこのくらい増やしていこうというような目標を持って、その分量に応じて指導してきた、あるいは、これ以上たくさん分量を書かせましょうということを申し合わせて、学年で取り組んできたという状況も見られました。

3点目は、学習態度も徹底させるという点です。学習の準備や忘れ物がないようにする、提出物、宿題、そういったものを厳しく指導してきたということです。

4点目は、そういったことができる環境やシステムを同時につくってきたということです。先ほど樋口委員からも、家庭学習がなかなかできない子どもに対してのフォローというお話がございましたが、休み時間や放課後、夏休みなどの時間を活用して、複数体制で指導していくなど、ピンポイントで補習、補充をしていく。そのような雰囲気があったということでございます。

以上のような、地道な取組が確実に成果を上げているということが、改めて分かりました。原点を大事に、今回のこういったものを紹介しながら、指導課訪問や、若手教員に対する研修会などを通して、学校に学力向上に向けて指導してまいりたいと考えてございます。学力調査結果のご説明は以上でございます。

続きまして、オの中1対象「社会・理科確認テスト」結果について、ご説明いたします。資料13をご覧ください。

今もお話をさせていただきましたが、中学校の段階になったときに、社会科と理科が、他の教科よりも課題が多い状況がございました。これを解決するために、昨年度、社会科・理科のプロジェクトチームを立ち上げ、どんなことができるかを検討し、昨年度3月から小学校で取り組んでまいりました。

内容は、項番2の表のとおりでございますが、昨年度3月に、各小学校6年生に対して、最低これだけは身に着けさせるという確認問題を作成し、指導をしてまいりました。その後、4月に、区立の中学校において同じ確認問題をテストしました。中学校で採点をした後に、結果を指導課で集約し、出身小学校別に分けたデータの結果を並べたものが、項番3の表でございます。

左側が社会科で、右側が理科です。表の平均の列は、テストの正答率の平均でございます。同じアルファベットは同じ学校を表わします。また、表の中央付近にある平均という欄は、9校の正答率の平均でございます。また、その他という欄は、区外から入学された生徒50人弱の正答率の平均を表しています。

こうした取組は今回初めて行いました。3月に実施したため、小学校ではなかなか指導の時間がなかったという状況もございましたが、各小学校の正答率の平均の開きを縮めていくことが小学校の役目であり、中学校でのスタートがスムーズに切れるために、小学校がしっかりした学力を定着させていくことが非常に重要だと思っております。

先ほどの学力調査に関する報告の中でも、中学1年生の社会かと理科が少しずつ上がってきたという報告をさせていただきましたが、少しずつ手応えを感じているところでございます。この取組も、その一助となったかと思っております。

資料にはございませんが、中学校でも学力を上げている学校の状況をヒアリングしましたところ、中学校1年生から2年生にかけて、特に国語と数学において、下位の層の生徒への補習など、きめ細やかな指導をしながら学力を定着させているという学校が、確実に結果を出してきているということもわかりました。

今後も特に社会科、理科を特に重点に置き、さらに今年度のプロジェクトチームの取組を継続しながら、学力向上を進めてまいりたいと考えております。

報告は以上です。

末廣委員長 ただいまの報告につきまして、まずは報告事項、指導課の工について、何かご質問ございますか。

高森委員 資料12について、中学校1年生の社会科・理科の評価の成績が、今回大幅にプラスに転じているのは、資料13の社会・理科確認テストとの関連性があるような気がしますが、いかがでしょうか。

指導課長 今回の確認テストの内容で、一番課題になったのは、地理の都道府県名、例えば何県が日本のどの辺りにあるのかということが十分理解できていなかったということです。歴史においては、人物を中心に歴史を取り上げて、歴史の古い順に学習しておりますが、人物を並べたときに、歴史の順番とその人物が何時代に存在したのかという、その順番がわからないということ、この二つを徹底して取組みました。

実際、中学校1年生の総合学力調査の問題を見ましても、地理でいいますと、やはり都道府県のことが出ていたり、歴史においては、やはり人物を取り上げて問題作成をされていたりということがいくつか見られましたため、結果との結びつきがある程度は見られたと分析しているところでございます。

末廣委員長 ほかにございますか。

前田委員 指導課長からの報告は、頼もしく思いました。一昨日に会合があり、ある方が都立高校の歴史の授業を見てびっくりしたという話をしていました。授業が始まってから10分間、何もしゃべらずに板書だけをしていたそうです。台東区の指導主事は、学校の授業を参観する機会がありますか。

指導課長 時間がある限りできるだけ現場に行き、特に若手教員や本区に異動してきた教員などを中心に、現場を見て指導しております。

前田委員 子どもたちの学力についても、生活問題についても、それらをよくするには

家庭での教育ももちろんありますが、学校では教員の力だと思います。

指導主事をお願いしたいのは、思い切って指導してほしいということです。新任でも、ベテラン教員に対してでも、それが指導主事の仕事ですから。例えば板書や、児童・生徒への言葉かけ、聞き方などにおいても、優れた教員とはそういった点も優れていますよね。それを見て、指導するのは指導主事の役割だと思います。

そういう意味では、指導課で指導主事を育ててもらいたい。教育委員会としては指導主事の力に頼るしかないと思っています。学校指導をするのは指導主事ですから、ぜひ、思い切ってやってほしい。多少の非難も覚悟してやってほしいと思います。そうしないと、いつまでたっても同じだと思います。

先生方の板書の仕方でも、筆順の工夫など、指導主事の力がないと指導し切れなと思います。その辺りは指導課長や統括指導主事が、指導主事を専門的な検知からご指導いただきたいと思います。そして、指導主事には思い切ってやっていただきたい。これは頭を下げてお願いしたい。よろしくお願いします。

末廣委員長 次に、報告事項、指導課の才について、何かご質問ございますか。

樋口委員 TOSSという組織ご存じですか。Teacher's Organization of Skill Sharingとありますが、学校と地域を結び付けて、子どもたちに活動をさせる。例えば、郵便局と連携して、郵便局のシステムを勉強しながら、国語の勉強で実際に手紙を書いて、その手紙が送られるシステムのところで社会科を教えるということです。他にも、お祭りに参加して、お祭りをこのようにするにはどうするか、それを地域に子どもを出すことによって、子どもの将来の職業や、自分は社会においてこういう位置にいるということがわかった上で、勉強をしているらしいです。

単に教科を教えるのではなく、社会の中に子どもがいて、学校と地域と子どもたちを動かす。教員が積極的に、学校の指導要領プラス地域の勉強をさせて、子どもを動かして、なおかつ子どもたちに地域を支える意識を目覚めさせるという目標なんです。台東区においても、単に学力ではなく、子どもの将来の職業感を目覚めさせた上で勉強させると、違うところで伸びていくのではないかという感じがします。

末廣委員長 ほかにございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、指導課の工及び才については、報告どおり了承願います。

### (3) 生涯学習課 カ

末廣委員長 次に、生涯学習課の力について、生涯学習課長、報告をお願いします。

生涯学習課長 今戸住宅及び合築区有施設の耐震診断結果について、ご説明いたします。資料14をご覧ください。

今戸住宅及び合築する待乳保育園および今戸社会教育館の耐震診断につきましては、平成24年5月29日開催の本委員会において、その実施についてのご報告をいたしました。本

日はその結果についてご報告いたします。

項番2の耐震診断結果をご覧ください。区の判定でB判定、比較的高い耐震性を持っているが、補強を要するというご様子です。

今戸住宅管理組合より耐震診断結果の情報提供を受けて以来、これまでその内容を精査するとともに、管理組合に耐震改修工事の実施を働きかけてまいりました。現在、今戸住宅を含めた今戸二丁目地区では、再開発事業の検討が行われており、管理組合では「再開発を前提とする建替え」を決めたところのご様子です。こうした状況を踏まえ、引き続き関係各課と総合的に対応を検討してまいります。

なお、待乳保育園、今戸社会教育館のご利用者には掲示物により、耐震診断結果についてお知らせをしております。

ご説明は以上でございます。

末廣委員長 ただいまの報告につきまして、何かご質問ございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、生涯学習課の力につきましては、報告どおり了承願います。

### 3 7月の行事予定について

末廣委員長 次に、7月の行事予定について、庶務課長、報告をお願いします。

庶務課長 7月の教育委員会行事予定は、資料15に記載のとおりでございます。

次回の定例会は7月11日木曜日、10時から、こちら教育委員会室でございます。

なお、夏季ラジオ体操が多く入っています。裏面に地区別の一覧表がございますので、ご覧ください。以上でございます。

末廣委員長 ただいまの報告につきまして、何かご質問ございませんか。

(なし)

末廣委員長 それでは、行事予定については報告どおり了承願います。

### 4 その他

末廣委員長 その他、何かございますか。

学務課長 情報提供がございます。

学務課資料の地図をご覧ください。ことぶきこども園の正面玄関前の道を挟んで、南西側、資料には計画地と図示されておりますが、現在、マンション計画が進行中でございます。こちらは、4月23日に台東区の中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例に基づき、説明会が実施されました。この計画地に13階建の賃貸マンションの計画で、全54室のうちワンルームと称されるものが36室、そのほか18室はファミリー向けという状況で、この敷地の東向きにベランダを設置するとのこと。ベランダがこども園側を向いていることとなります。

説明会の後、こども園のPTA小桜会でも、この状況を話題にいたしまして、5月末まで

に、こども園園長と小桜会会長で要望をしまして、6月の中旬にその回答がありました。

主な内容としましては、まず、工事中の安全確保、騒音防止、特にお昼に午睡等もございいますので、こちらについては、安全確保を講ずるということで、具体的には工事の現場責任者決定後に、改めて協議をしたいということになっております。

また、屋上での水遊びや、保育室、プレイルーム等がベランダから見えることもあり、できれば、向きを変えてくれないかという要望と、ワンルームでございいますので、風紀が悪化しないように、ファミリー向けの部屋を増やしてもらいたいという要望をしておりますが、こちらについては、事業者として要望には沿いがたいが、趣旨を注意喚起していくということで回答されております。

また、13階建というのはこの近所では一番高いビルになります。ということで、高さを隣接ビルにあわせてほしいということや、日照の影響があるということで、その辺りも詳細な調査をしてほしいという要望を出しておりますが、こちらにつきましては、商業地域の中での建設で、適法な範囲で準備しているということで、ご理解願いたいという回答があります。

そのほか基準に沿って、マンションの戸数分だけの自転車置き場が設置されていますが、1部屋1台という時代ではありませんので、放置自転車対策についてきちんとやってほしいという要望も出しているところでございます。

以上、説明会は4月23日に行い、その後は個別に要望を出して回答をもらっている状況でございますが、先日6月20日のことぶきこども園運営協議会の席で、今後、近隣の人たちと情報を共有して取り組んでいくというお話がありまして、本日6月25日（火）に、地元の元浅草三丁目町会の西岡会長のお名前でお声掛けをして、情報共有の連絡会を開き、第1回の趣旨としましては、もう一度説明会をきちんと開いてもらいたいという趣旨で取り組んでいきたいということを確認をすると聞いております。

以上でございます。

前田委員 私も報告をしてもよろしいですか。

私は台東区芸術文化財団の理事をしております、神子理事長の挨拶の中で、グローバル化する時代に、財団は、芸術文化的な、大きなコンセプトを持ちながら事業を進めたいというお話がありました。

その中で、同じく理事の方から聞きましたが、院展開催時に、事務局のある谷中で、児童・生徒向けの絵画教室を行うとのこと。これは、日展でも行います。小中学校生向けの事業もやっているの、よろしく願いしますという、そういう話がありましたので、紹介をさせていただきました。

末廣委員長 そのほかに何かございますか。

樋口委員 驚くべき話ですが、昨日の新聞に、川崎市の定時制高校の野球部に83歳の女性が部員でいて、実際に守備にも出て、準優勝されたという記事がありました。これは子どもたちには凄く興味深い情報だと思います。積極的に学校に貼りだしてあげたらどうか

と思います。子どもたちにとっても励みか、それとも驚きか、興味ある情報だと思います。こういう情報は教育委員会から発信してもいいと思いますが、いかがですか。

末廣委員長 新聞に載ったのですか。

樋口委員 新聞に載りました。私も持っています。

前田委員 千代田区には定時制の中学校があり、その入学式と卒業式には70歳代、80歳代の方もいます。それで議員さんたちがそれを見て感動して、小中学生にも見せたらどうかと言いました。しかし、ご本人たちはいろいろな事情があって義務教育である中学校に行けなかった。そのことを、家族にも内緒で来ているという方もいるということもあって、プライバシーの問題でどうかということが話題になりました。なかなか難しい問題もあるようです。結局は、そういうことはしないでほしいと言われてしなかったそうです。しかし、今回の記事はすごいなと思いました。

指導課長 樋口委員からいただきましたご意見につきましては、新聞の紹介や、例えば校長先生の朝礼での話に出してほしいなど、指導課から各小中学校には周知をして、お願いしたいと思っています。ありがとうございます。

末廣委員長 いろいろとお話が出ましたが、ほかに何かございますか。

(なし)

末廣委員長 それでは、以上をもって、本日予定された議事日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、本日の定例会を閉じ、散会とします。

午後3時51分 閉会